

週刊

明るい小矢部

赤旗 読者通信 改題

2023. 5. 28
通巻No. 1605

日本共産党
小矢部市委員会

市内七社 245
Tel 67-4322
Fax 67-4842

何でも
ご相談を



市議会議員
上田由美子
☎ 68-2106
Fax 68-2146



参議院議員
井上さとし



前衆院議員
藤野保史

禁断転載
複写配布

県に予算要望 日本共産党



要望する上田市議=5月17日、県議会会議室

日本共産党富山県地方議員団は5月17、18日、富山県へ2024年度予算編成に対する要望を行いました。上田由美子市議も参加し、要望実現を働きかけました。

国保税子どもの均等割廃止を

(共産党) 国民健康保険税について、国の動きにあわせ、小矢部市が18歳までの子どもの均等割を廃止しようとするれば、2022年度は18歳までは752万円、未就学児では85万円まで可能である。市独自施策に介入しないと確認されたことを、すべての市町村にも通知すること。

(県) 子どもの均等割については、市町村独自ではなく国全体で解決する問題である。しかし、市町村から均等割軽減の相談があった時は、相談に応じる。

「核兵器のない世界を」の 悲願を掲げて

被爆78年目の国民平和大行進(富山→広島コース)が5月31日、朝日町を出発し、小矢部市へは6月9日(金)午後到着、翌日正午ごろ、石川県へと引き継がれます。

ウクライナ侵略戦争が始まって2年目に入り、ロシアがベラルーシに原爆を配置するなど核拡散防止条約(NPT)違反が拡大。それに対抗するかのようになり、先日G7広島サミットの首脳声明では、核兵器廃絶を「究極の目標」に棚上げし、核兵器禁止条約には一言も触れられない「力対力」の対決表明でした。

被爆者や核廃絶を願う多くの人々を失望させる中で、今年行進は唯一の戦争被爆国日本の「核兵器のない世界を」の悲願を、沿道の皆さんともう一度確かめ合いながら、広島の世界大会へと繋いでゆく行動となります。一歩でも二歩でも参加しませんか。声かけでも、折り鶴でも、署名でも、募金でも、なんでもよろしいのです。原水爆禁止の思いを表現しませんか。

富山から広島へ トランペット持参で通し行進者も

9日(金)13時40分から石動駅近くのアラキ薬局前の交差点で、スタンディングとリレートークで町内や通行中の市民に訴えます。南砺市から行進してきたリレーチームを迎えます。この中に、富山から広島まで歩く山内金久さんがあります。山内さんは74才、東京の板橋原水協副会長、

ひきこもり対策を

(共産党) ひきこもり対策を市町村と連携して、抜本的に強化すること。とりわけ、ひきこもりの若者や大人及びその家族への支援のための公的な施設、機関を設けることで、相談体制や公的機関としての系統的な働きかけ、家族への精神的フォローができるようにすること。

(県) ひきこもり問題は深刻化している。20年7月に富山県子ども・若者総合相談センターを設置して本人や家族の相談に応じている。22年3月にはSNSの相談窓口を設置した。相談者を各支援機関につなぐ役割をしている。

有機農業とオーガニック給食を

(共産党) 有機農業の拡大とオーガニック給食(有機米や有機野菜を学校給食に取り入れること)の普及に取り組むこと。

(県) 県産有機農産物のネットワーク作りが必要である。有機農産物を使った給食は昨年南砺市で4回、滑川市で1回、舟橋村で1回実施された。今年は富山市で検討している。

「子ども食堂」へ支援を

(共産党) 毎月1回開催される地域の「子ども食堂」には、100人を超える参加者があり喜ばれている。市町村格差をなくす等取組みを強めること。また補助対象が年24回以上、立ち上げのみになっているが、月1回でも何らかの支援を行うこと。

(県) 子ども食堂は県内に39か所設置されている。県の補助制度は、23年1月から補助対象が年12回以上開催となった。

トランペット持参で参加されます。合流して小矢部市役所に向かい、玄関前で市長さんや議長さんなども交えて平和への思いを交流します。

10日(土)10時より、小矢部平和委員会呼びかけの「核兵器無くせ、ウクライナに平和を」の市民平和行進を行います。10時15分から約30分、商工会館前の交差点で、スタンディングとリレートークを行います。その後、中央町交差点を右折して行進し、11時には市役所に戻ります。

希望者は、車に分乗して俱利伽羅トンネルを抜け、石川県との引き継ぎ式に合流します。